



人物史と  
そのゆかいの地

# 今日の目標

歴史から今に役立つことを  
自分で見つけられるようにする。

\* 1番重要なのは  
「考える」トレーニングをすること。

もし自分だったらどうするか？  
もし過去に戻れたら何をすれば良かったの  
か？

今自分にできることは何か？

# ★フローレンス・ナイチンゲール略歴

1820年 イギリスの上流階級に誕生

1837年 16歳の夜、神の声を聞く

1842年 イギリスで大飢饉

1844年 看護師になることを決意

1849年 結婚を断る

1854年 クリミア戦争で活躍

1860年 世界初、看護学校を設立

\*以降、医療・看護の現場を確かなものへ

1907年 イギリスで女性初、メリット勲位を受賞

1910年 永眠



## ★人生のターニングポイント①

16歳のある日の夜、自分の部屋でいつものように日記を書いていたフローレンスの耳に、どこからか声が聞こえてきました。

「あなたにはなすべきことがあります。あなたにしかできない、大切なことがあるはずです。」

Q みんながフローレンスの立場だったなら？

選択肢

- ① 不審者がいるので気持ち悪いと思う
- ② 気にしない、自分は疲れているだけだと思う
- ③ 神様、そうに違いない。



## ★人生のターニングポイント①

16歳のある日の夜、自分の部屋でいつものように日記を書いていたフローレンスの耳に、どこからか声が聞こえてきました。

「あなたにはなすべきことがあります。あなたにしかできない、大切なことがあるはずです。」

フローレンスは、  
神のお告げであると信じて、  
この日から‘大切なこと’を探し始めた。



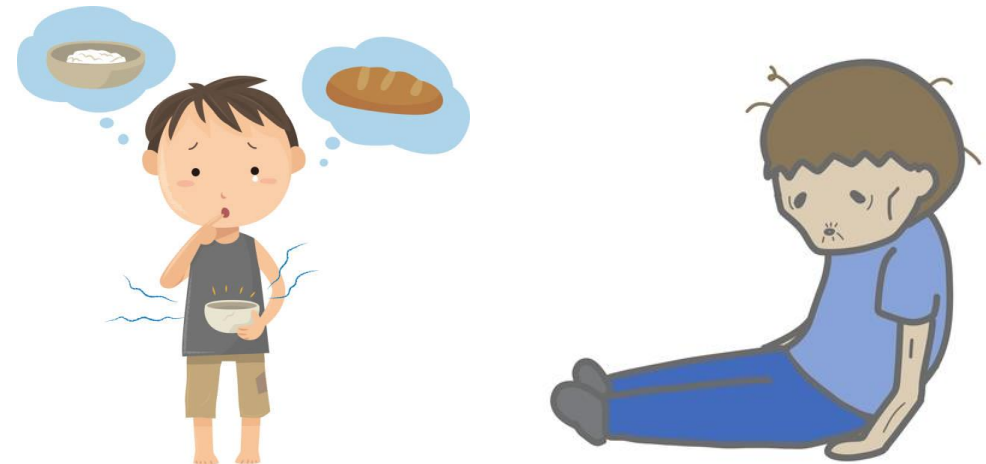
## ★人生のターニングポイント②

22歳のとき（1842年）、イギリスに歴史的な大飢饉（だいききん）が起こった。

食べ物がなくなり、たくさんの人が仕事を失った。

フローレンスは、上流階級の務め（つとめ）として、姉のパーシーとともに農村部へ慈善活動をしに行った。

そこでは、小さな男の子がしくしく泣いていた。その腕や足はやせ細っていた。



## ★人生のターニングポイント②

何日もほとんど食べていない。食べ物が無い。  
フローレンスは、何軒もの家に食べ物を配っているうちに、ある疑問が湧いてきた。

「なぜ、自分たちの家にはありあまるほどのものがあるのに、一方ではこんなに飢えて苦しんで人がいるのか？」

Q みんながフローレンスの立場なら？

選択肢

- ① 自分が貴族で良かったと思う。必要以上のことはしない。
- ② 神様に祈りを毎日捧げて助けてもらう。
- ③ 村の看護をするために専門的な知識を学び始める。



## ★人生のターニングポイント②

何日もほとんど食べていない。食べ物が無い。  
フローレンスは、何軒もの家に食べ物を配っているうちに、ある疑問が湧いてきた。

「なぜ、自分たちの家にはありあまるほどのものがあるのに、一方ではこんなに飢えて苦しんで人がいるのか？」

フローレンスは、  
これが長い間、「探していた何か」であり、  
それにめぐり会えたとわかった。  
はっきりとした目標を見い出して、  
看護の専門的な知識を学び始める。





## ★人生のターニングポイント③

看護の勉強をすると決心したフローレンスは、じっさいに病人の世話をするのが1番だと考え、家から近いソールズベリーの病院へ行こうとした。

しかし、両親の激しい反対にあいます。

「頭がおかしくなったの？」

母は泣き叫んだ。

「この恩知らずが！」

いつもは理解のある父までも苦しい表情をした。

もっとも、そのときの背景を考えると普通かもしれない。



## ★人生のターニングポイント③

19世紀のイギリスでは、病院は薄暗く不潔なところで、看護師は身分の低い人の、いやしい仕事だと考えられていた。せいぜい患者の手伝いをする程度で、だらしない人が多く、患者の前でお酒を飲む人もいた。



## ★人生のターニングポイント③

フローレンスは家族の前では普通にふるまい、家族に知られないように、朝早くや深夜などを使って寝室で勉強をしていた。

そんな日を送るうちに、神経衰弱という、心の病気にかかってしまう。



## ★人生のターニングポイント③

家族とのわだかまりが解消されない中、ある日、同じ上流階級である、リチャード・モンクトン・ミルンズが結婚を申し込んで来てくれた。

「フローレンスさん、ぼくと結婚してください。」

もし結婚をすれば、看護の勉強もあきらめなくては  
いけない。

Q フローレンスの立場なってみよう。



## ★人生のターニングポイント③

家族とのわだかまりが解消されない中、ある日、同じ上流階級である、リチャード・モンクトン・ミルンズが結婚を申し込んで来てくれた。

「フローレンスさん、ぼくと結婚してください。」

もし結婚をすれば、看護の勉強もあきらめなくては  
いけない。

フローレンスは  
「私の生きる道は、そこにはない…」  
とプロポーズを断った。



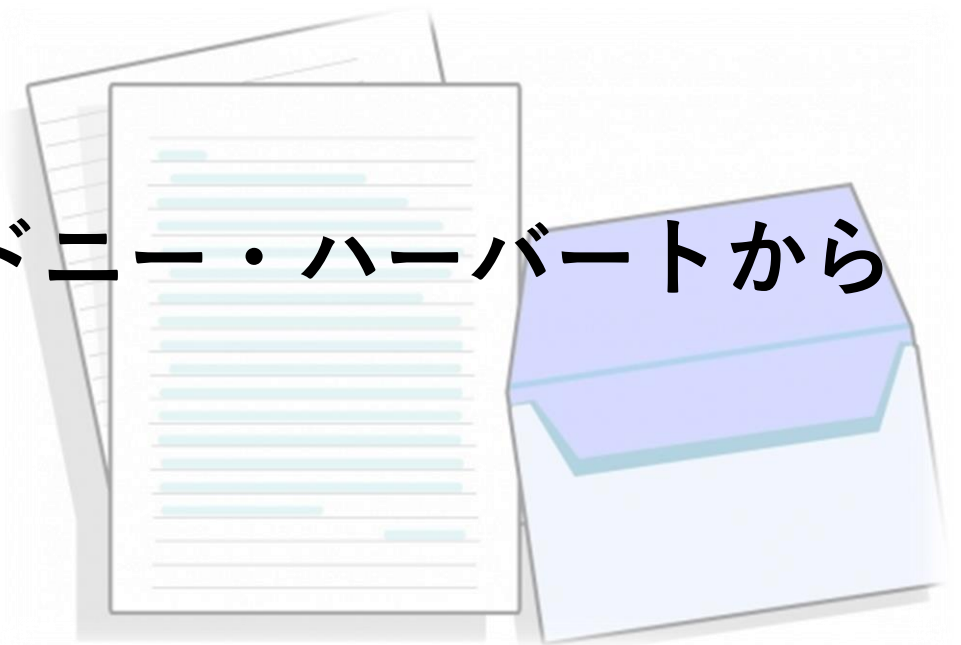
## ★人生のターニングポイント④

1854年、ロシアの南下政策に対して、トルコ・イギリス・フランスが戦争を起こした（クリミア戦争）。

トルコにあるイギリス軍の病院では、医師も看護師も、薬も包帯も足りない。

たくさんの兵士が苦しんでいることを新聞で知ったフローレンス。

ちょうどそのとき、陸軍大臣であるシドニー・ハーバートから手紙が届く。



## ★人生のターニングポイント④

陸軍大臣シドニー・ハーバートの手紙には、

「戦地へ行って、看護のすべてを指導してください。

あなたは軍の医師たちの協力と援助が受けられ、

必要なものは何でも政府に要求できます。」

と書かれていた。

フローレンスは喜んで戦地へ向かうことに。



## ★人生のターニングポイント④

戦地では、けがをした兵士たちの手当の手伝いをはじめ、病室の掃除に洗濯、食事の世話。

おまけに嵐のせいでイギリス軍からの物資が届かなくなった。ベッドが足りなくて、床に寝ている兵士のために、布をぬってその中にわらを入れて、マットも作った。





## ★人生のターニングポイント④

イギリスにおける統計学の基礎を築いた。

ナイチンゲールは兵士の死亡原因や病院の環境を統計学の手法を用いて分析。わずか3か月で兵士の死亡率を42%から5%に激減させた。



## ★人生のターニングポイント④

毎日寝る間もないくらい忙しい中で、フローレンスが絶対に欠かせないことが、夜の見回りだった。

兵士たちが寝静まった後、  
フローレンスは、ランプを手に歩き、  
ひとりひとりの様子を見た。  
目があえば、優しくほほえみかけます。

そのフローレンスの姿は、  
兵士にとってはまるで天使のように見え、  
「クリミアの天使」「ランプのレディ」と呼ばれた。



## ★人生のターニングポイント④

フローレンスたちの活躍は、大臣を通じて、イギリスのビクトリア女王にも伝わる。

1856年、2年にわたるクリミア戦争は、イギリス側の勝利で終了した。

その功績から、フローレンスはイギリスの英雄となっていた。その後、ナイチンゲール基金ももうけられ、様々な場所で講演の依頼などの声がかかる。



ものには  
すべて時が  
あります。

★フローレンス・ナイチンゲールの言葉

ものごとを始めるチャンスを私は逃さないというフローレンスの気持ちがわかります。



あきらめと  
いう言葉は  
私の辞書に  
はない。

★フローレンス・ナイチンゲール  
の言葉

両親を説得し、ドイツへ看護の  
勉強に出かける少前に書き記し  
た一言。

